

投稿論文等執筆細則

学会誌に投稿する「研究論文」及び「実践報告」の原稿は、それぞれ指定された Word のフォーマットを学会ホームページよりダウンロードした上で、フォーマットに書かれた注意事項及び本細則に従って執筆するものとする。その他の原稿についても、別途該当するフォーマットに沿って執筆すること。フォーマットに沿っていない原稿は、受け付けないことがある。

1 原稿の形式

- (1) 原稿は、本文のほか、和文及び英文の題目、氏名、和文及び英文の要旨、キーワード、所属、註までを含めて、指定フォーマット 14 頁以内を厳守すること。改行等による空白、図版、キャプションなども含んでいることに注意すること。
- (2) 1 頁目の和文及び英文の題目、氏名、和文及び英文の要旨、キーワード、所属のレイアウトは固定とし、2 頁目以降の本文についても、行数や文字数、フォントやポイント、レイアウトの変更は一切認めない。
- (3) 本文は、1 頁あたり最大 2,024 字（1 行 23 字×44 行×2 段）である。
- (4) 和文と英文の要旨は、内容が一致すること。

2 表記について

- (1) 本文の読点は（、）、句点は（。）を使用すること。
- (2) 原則として常用漢字を使用する。ただし、慣例による場合や固有名詞はこの限りではない。特に異体文字を使用するときは、出力した原稿の該当箇所を赤丸で囲む。平仮名は、現代仮名遣いによる。
- (3) 特別な文字や変換できない文字等の使用を必要とする場合には、その箇所に□を入力し、プリントしたものの該当箇所に正しい文字を朱書きする。
- (4) 英数文字は、頭文字や固有名詞、略称（例：NHK）等を除いて、原則として半角とする。
- (5) 英文の題目と要旨は、原則として、英語を母国語とする人のチェックを受けること。

3 図・表の扱い

- (1) 表には、その上段に「表 1」「表 2」（出現順）と記し、キャプション等をその右に続けて記入する。キャプションの位置は、表の左端に合わせて左詰めとする。
- (2) 図（写真を含む）には、その下段に「図 1」「図 2」（出現順）と記し、キャプション等をその右に続けて記入する。キャプションの位置は、図の左端に合わせて左詰めとする。
- (3) 原則として、図・表は本文中に貼り付け、段組の幅を基準とした統一感のあるレイアウトを心がける。段内においては、図・表の左右には本文を割り付けない。
- (4) 学会誌はモノクロで印刷されるため、現物の図・表は、黒一色で作成された鮮明な版下を提出する。ただし、査読用にはそのコピーを提出すればよい。

4 項立て・見出し

- (1) 項立て・見出しは、下記のような半角英数字と見出し語のみとする。半角英数字の後

は、全角スペースを一つとり、ドット (.) は付けないこと。

- ・大項目 1 2 3 …
- ・中項目 1-1 1-2 1-3 …
- ・小項目 (1) (2) (3) …
- ・細項目 a b c …

(2) 大項目は見出しの入る行 (1行または複数行) の上下各1行を空ける。中項目は、上1行を空ける。小項目以下は行を空けない。

5 引用について

- (1) 直接引用文は、「」内に入れる。6行を超える長文の場合は、引用文の上下各1行を空け、2字分下げる。
- (2) 直接引用で、旧漢字、旧仮名遣いを用いた場合は末尾に (原文のまま) と表記する。それらを常用漢字や現代仮名遣いに改めた場合は、末尾に (常用漢字、現代仮名遣いに改める) と表記する。
- (3) 原文の誤字や当て字をそのまま引用する場合には、該当する文字の上に「ママ」と表記する。

6 謝辞・付記・註

- (1) 謝辞・付記・註がある場合は、論文の末尾にそれぞれ、[謝辞]、[付記]、[註]の順で記載する。
- (2) 註の番号は該当する文節の末尾上 (右肩) に通し番号 1)、2)、3) … (出現順) で示す。註で文献を記す場合は、以下の順に全角カンマ (,) で区切って示す。海外の文献についても同様とする。

a 和文雑誌

著者, 発行年, 「論文名」, 『雑誌名』, 雑誌の巻 (号), 発行所 (学会名), 頁

例: 1) 大橋功, 2017, 「描画活動における知覚と表現の関係に着目した『表現タイプ』についての考察: 『歯磨きの絵』にみる特徴的表現を通しての検討」, 『美術教育』, 301, 日本美術教育学会, pp. 14-22

b 和文書籍

著者, 発行年, 「章など」, 編者, 『書籍名』, 出版者 (発行所), 頁

例: (単著の例)

2) 岡本太郎, 1954, 『今日の芸術: 時代を創造するものは誰か』, 光文社, pp. 215-234

(編者がいる場合の例)

3) 垣内国光, 2011, 「共感共生労働としての保育労働」, 垣内国光 (編), 『保育に生きる人びと: 調査に見る保育者の実態と専門性』, ひとなる書房, pp. 17-19

c 翻訳書

原著者姓 (姓名原語表記), 訳者名, 発行年, 『書名』, 出版社 (発行所), 頁

例: 4) V. ローウェンフェルト, 竹内清他訳, 1963, 『美術による人間形成: 創造的発達と精神的成長』, 黎明書房, pp. 28-29

d 欧文雑誌

著者, 発行年, “論文名”, 雑誌名 (イタリック), 巻 (号), 頁

例: 5) Mitsuru Fujie, 2003, “A Comparative Study of Artistic Play and Zoukei-Asobi”, *Journal of Aesthetic Education*, 37(4), pp. 107-114

e 欧文書籍

著者，発行年，“章など”，編者，書名（イタリック），出版者（発行所），頁

例：(単著の例)

6) Ruth H.K. Wong, 1974, *Educational Innovation in Singapore*, The Unesco Press, pp. 1-6

(編者がいる場合の例)

7) Kevin Crowley, Palmyre Pierroux, and Karen Knutson, 2014, “The museum as learning environment”, In Keith Sawyer (Ed.), *The Handbook of the Learning Sciences*, Cambridge University Press, pp. 461-478

f ウェブサイト

例：8) 日本美術教育学会 HP, <http://www.aesj.org> (2025年4月8日閲覧)

g 「同上」及び「前掲」の表記

- ① 同じ文献で通し番号が続いている場合は、既述の項目の重複部分を省略し、同上、該当頁を示す。

例：(和文の例)

9) 同上, p. 22 (又は pp. 22-23)

(欧文の例)

10) Ibid., p. 22 (又は pp. 22-23)

- ② 通し番号は続いていないが既述の同じ文献を引用する場合は、著者名（姓のみ）、前掲註番、頁を示す。

例：(和文の例)

11) 木下, 前掲5, pp. 160-165 (又は p. 160)

(欧文の例)

12) Howard Gardner, *op. cit.*, p. 122 (又は pp. 122-123)

- ③ 同一著者による前掲文献が複数ある場合は、著者名（姓のみ）、前掲註番、「文献名」、頁を示す。

例：(和文の例)

13) 岡本, 前掲2, 『今日の芸術：時代を創造するものは誰か』, p. 234 (又は pp. 234-235)

(欧文の例)

14) Howard Gardner, *op. cit.*, *Creating Minds*, p. 122 (又は pp. 122-123)

付 則

この細則は、平成16年4月1日より施行する。

平成17年4月1日一部改正

平成20年4月1日一部改正

平成22年4月1日一部改正

平成24年4月1日一部改正

令和2年4月1日一部改正

令和4年4月1日一部改正

令和7年2月15日一部改正